

2022年9月18日～9月24日 各家庭でのディボーション用テキスト

それから二人は立ち去り、次の歌を歌った。

かく羊飼たちによって秘密は明らかにされた。  
それは他のすべての人には隠されたものだ。  
さらば羊飼たちのもとに来たれ、  
深きもの、隠れたもの、不思議なものを見ようとする者は。

二人が出発しようとしたとき、羊飼たちの一人が道案内をつけ、他の人は巧言者に用心しなさいと言い、三番目の人は魅惑境で眠らぬよう気をつけなさいと言い、四番目の人は前途の平安を祈ってくれた。こうして私は夢から覚めた。

私はまた眠って夢を見たが、その中で、先の巡礼者二人は山を下り、都に向かって街道を進んで行くのが見えた。さてこの山から少し下った左手の方に自惚（うぬぼれ）国があった。その国から巡礼者たちが歩いている道へ、狭い曲がった小路が続いていた。ここで彼らはその国から来た非常に元気な若者と出会った。その名は無知者であった。そこで基督者は彼にどこから来て、どこへ行くのかと尋ねた。

**無知者** 私はあそこから少し左手に寄った所にある国に生まれました。これから天の都へ行くところです。

**基督者** ですが、どうしてその門から入るおつもりですか、そこには多少困難があるかもしれませんよ。

**無知者** ほかの皆さんのようにやるつもりです。

**基督者** だが、その門を開けてもらうためにそこで見せるものを何かお持ちですか。

**無知者** 私は主のみ心を知っています。それに今までりっぱな生活を送ってきました。だれにも借りはありません。祈祷もし、断食もし、十分の一税も払い、施しもします。そして今行こうとしている所に向かって国を出たのです。

**基督者** ですが、君はこの道の入口にあるくぐり門から入ったのではなく、例の曲がった小路を通過してここに来たのです。だからどんなふうに分かることを考えようと、さばきの日が来たら、都に入ることを許されないで、君が盗人であり強盗であるのは自分の責任だということになるでしょう。【ヨハ10:1】

**無知者** あなた方はあかの他人で、私はあなた方を知りません。あなた方はお国の宗教に従うことで満足して下さい。そうすれば私は自分の国の宗教に従うつもりです。それで皆都合よくゆくとおもいます。それからお話の門のことですが、それが私たちの国から大分遠方にあることは周知のことです。私たちの地方では、だれもそ

こへ行く道を知りもしないと思います。またご覧のとおり、私たちの国から来ているりっぱな気持のよい緑の小道で本道に一番近い道がある以上、知っていようといまいと気にかける必要はないですよ。

基督者はその男が「自分の目に自らを知恵ある者とする」のを見ると、有望者にささやいて言った「彼よりもかえって愚かな人に望みがある」ものです。【箴 26:12】 その上また言った、「愚か者は道を行くとき、思慮が足りない、自分の愚かなことをすべての人に告げる」ものです。【伝 10:3】 どうでしょう、もっと彼と話しましょうか、それとも今は先に行って、彼にはすでに聞いたことを考えさせ、その後再び彼を待って、彼のためになることをおいおいしてやることができるかどうか見ることにしましょうか。すると有望者は言った。

無知者には今暫く、言われたことを考えて、  
善い勧めに従うのを拒まぬようにさせよう、  
最大の利益は何かについて、いつも無知でいるといけないから。  
神は言われる、悟りなき者はわが創った者でも救うまいと。

有望者はさらにつけ加えた。一時になにもかも彼に言うてしまうのはよくないと思います。よろしかったら彼を素通りして、やがて彼がそれに耐えられるようになったら話すことにしましょう。

そこで二人は進んで行き、無知者は後から来た。さて、彼を通り過ぎて暫く行ったところ非常に暗い小道に入った。そこで七つの悪鬼が一人の男を七本の丈夫な紐でしばって、山腹に見かけたあの扉の方に運んで帰ろうとしているのに出会った。

【マタ 12:45、箴 5:22】 今やさすがの基督者も震えだし、道連れの有希望者もまたそうであった。それでも、悪鬼がその人を連れ去るとき、基督者は知り合いの者かと思ってみると、それは背教町に住んでいた変節者という者ではあるまいかと思った。けれども彼がひとたび通り過ぎると、有望者はその後を見送った。すると背中に次のような文字を書いた紙を見つけた。「みだらな信者、地獄に落つべき背教者」。そのとき基督者は仲間と言った。私は今思い出しましたが、それはこの辺のある善良な人に起こった事について聞いたことです。その人の名は薄信者といいましたが、善良な人で誠実町に住んでいました。その事というのはこうです。この路の入口に広小路門から来る死人小路という小路があります。そう呼ばれるのは、そこでよく行なわれる殺人のためです。ところでこの薄信者も今の私たちのように巡礼に出かけた途中、ふとそこで腰をおろして眠ったのです。さて、そのとき広小路門から小路をやって来たのは三人のしたたかな悪党で、その名は臆病者、不信者、有罪者で、三人兄弟でした。彼らは薄信者がそこにいるのを見つけて、大急ぎで駆けつけて来ました。さて、その善い人はちょうど眠りから覚めたところで、起き上がって旅に出かけようとしていました。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい